

千曲川の河川調査を実施

調査日

令和3年9月28日（屋島橋～大俣）
30日（大俣～中央橋）

河川調査の目的は、河川空間の魅力を知ることである。自ら川下りを体験する中で、何を感じるのか、多くの委員に体験していただき、その時何を感じたのかを把握するため、併せてアンケート調査を実施する。アンケート内容は、シンプルな質問のみとし、かつ記述式にすることで、調査員が感じたことを素直に書けるよう配慮した。今後、この体験を通じて感じたことを、ワークショップで述べていただき、本年度策定する利活用構想に活かす。







アンケート調査結果の総括

千曲川の利活用により地域の活性化が図れると回答した人は89.7%、不可能と回答した人は0%、どちらとも言えないと回答した人は10.7%という結果となった。

本エリアの千曲川は、勾配が緩く、流れが穏やかであることが最大の特徴と言える。今回の調査では9月28日は上流の流れが穏やかな箇所のみ調査と、同月30日は立ヶ花狭窄部の比較的瀬のある流れの早い所と、その下流の穏やかな流れの箇所を調査した。28日と30日では、感想に多少の相違がみられたが、総括すると、良い点として、千曲川は初心者や子ども向けのイベントが可能、安心して川下り体験ができる。また風景を楽しむ余裕がある。斬新な風景、ゆったりした流れに心が癒されるという意見もあれば、逆に悪い点として、ラフティングには不向き、川下りとしては退屈だったという意見もある。そこで、退屈させない工夫として、多様なアクティビティーの組み合わせや官民連携による魅力の創出、さらにはガイドによって川下りなど、ツアー全体の満足度が高まるなど貴重な意見もあった。特に、千曲川の利活用のアイディアでは多くの意見をいただいた。これらの貴重な意見を、今後ワークショップで共有するなかで、さらなる利活用の方法について深く掘り下げていく予定。